

No.2 中学校でも出前授業 号(2026.6.5 発行)

高校総体（5/13～15）が終わり、定期試験（5/25～5/28）も終わり、もう少ししたら学園祭に向けての準備が始まるこの6月第1週は、ちょうど忙しさが一段落する時期です。このタイミングで1つSSHのイベントがありましたので紹介します。

中学校での出前授(6/4)

今年度の新たな取り組みとして、中学校教員を志望する生徒たちが葦崎西中学校で出前授業を行いました。対象は、入学したばかりの1年生2クラスです。前回の小学校での学年一斉授業とは異なり、今回は5校時に甘利山倶楽部の方が1組、葦崎高校の生徒が2組で授業を行い、6校時には担当を交代して授業を実施しました。そのため、葦高生にとっては同じ内容の授業を2回経験する貴重な機会となりました。当日のタイムテーブルおよび授業内容は、下表のとおりです。



		1組	2組
5 校 時	13:35～ (5分)	1・2組揃って(教室の横の廊下／2クラス揃って集えるスペースあり) 始めの会：号令／学年主任の話／代表者の話	
	13:40～14:25 (45分)	甘利山倶楽部 ①甘利山の成り立ち ②甘利山の植物	葦崎高校3年生 30分 ①甘利山草刈りが必要な理由 高校生物の学習内容をベースに ②甘利山さわら池の調査結果 ③中学生へ向けてのメッセージ 甘利山倶楽部 ①甘利山で出会う動物の毛皮・骨を触ってみよう
	14:25～	休憩	
6 校 時	14:35～15:20 (45分)	5校時に2組で実施した内容	5校時に1組で実施した内容
	15:20～15:25 (5分)	終わりの会(各クラスで実施) お礼の言葉／代表者の話／号令	同左

甘利山では、年に2回、ボランティアを募って草刈りを実施しています。しかし、なぜ草刈りが必要なのでしょう。草刈りや草取りと聞くと、「雑草が生えると花壇などに植えた植物が育たなくなるから」と考える人が多いかもしれません。しかし、甘利山で草刈りが行われる理由はそれだけではありません。高校生物で学ぶ「生態系」の視点から見ると、甘利山は人の手が加わることで生物多様性が維持される、いわば里山的な環境となっています。今回、葦高生から6名が先生役として参加し、スライドを用いながら「生物多様性を維持するにはどうすればよいか」「遷移とは何か」



「草刈りをしないと環境はどう変化してしまうのか」といった内容について順番に説明しました。また、授業の最後には、「何事にも挑戦しよう」「仲間を大切にしよう」「今を全力で生きよう」という葦高生からのメッセージを中学生たちに伝えました。中学校に入学したばかりの生徒の中には、小学校との違いに戸惑っている人もいると思います。今回の授業が、そんな生徒たちにとって少しでも前向きな力になればと思います。そして、科学への興味を深めたり、勉強や部活動に積極的に取り組んだりしながら、充実した中学校生活を送ってほしいと願っています。それと同時に、先生役を務めた6人の高校生にも、この経験を生かし、本物の教師となって再び教壇に立ってくれることを期待しています。

また、甘利山倶楽部側から講師として参加されていた「山梨県植物研究会」の櫻井八洲彦先生に、3年生の課題研究「甘利山さわら池の調査」について相談させていただいたところ、快く協力を引き受けてくださいました。

後日、櫻井先生には一緒にさわら池に行っていただき、池の周りに生えている植物名を1つ1つ教えていただきました。